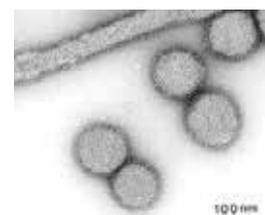


テーマ：カニクイザルを用いる新規ワクチンの有効性検証

■ 背景

2020年以来COVID-19が猛威を振り続けている。これに対応するため、かつてない速さでSARS-CoV-2スパイク蛋白を標的とするmRNAワクチン研究が進み、モデルナやファイザー社などがワクチン開発に成功を取ってきている。



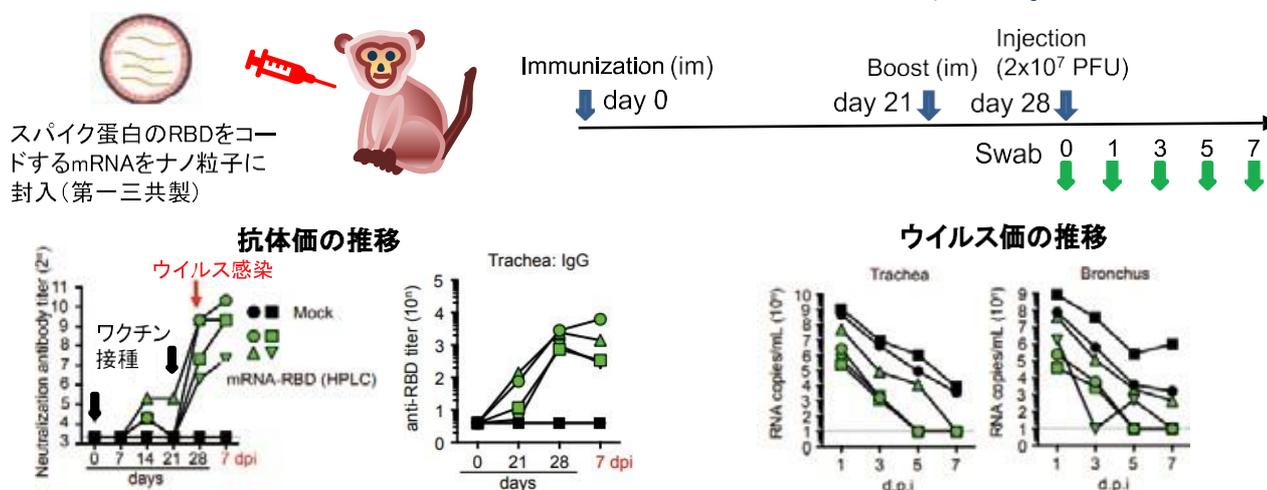
SARS-CoV-2ウイルス

インフルエンザウイルス

■ 病理学講座：疾患制御病態学部門の強み

これまでインフルエンザやCOVID-19などの呼吸器感染症にフォーカスした研究を進め、ワクチン開発において数多くの成果を報告してきた。また、本学は国内有数のカニクイザルの繁殖施設であり、病理学講座：疾患制御病態学部門ではカニクイザルを用いた新規ワクチンの有効性検証に強みを持つ。複数の製薬企業からカニクイザルを用いた有効性検証を受託・評価してきた実績がある。以下にDS-5670（第一三共；P-2）での事例を紹介する（東京大学医科学研究所と共同）。

bioRxiv. doi: <https://doi.org/10.1101/2021.03.04.433852>, 2021



■ 製薬会社との共同研究

新規ワクチンの評価は信頼性保証試験レベルで対応可能（特にインフルエンザや新型コロナウイルスなど）。また、ワクチン開発における非臨床/臨床試験パッケージについてコンサルテーションも可能である。

P3レベルの実験設備を持ち、国立感染症研究所から様々なウイルス株が入手出来る他、附属病院から臨床分離株を利用することも可能である。

■ 病理学講座疾患制御病態学部門ホームページ

<http://www.shiga-med.ac.jp/~hqpato2/>